

わたしの聖戦

ジハード
女性が
働くこと

医学ジャーナリスト・医学博士

植田美津恵

連載
242

自然への畏怖を忘れるな

アレルギーで悩んでいる人は多いことだろう。

かくいう私も、アレルギー体質で、猫やハウスダストにめっぽう弱い。

あるとき、一晩だけ預かった2匹の子猫があまりに可愛いので、ここぞとばかりに抱っこや頬ずりをしたところ、翌朝大変なことに…。両手の爪を立てて搔きむしらずにはいられないほどの痒みに襲われ、参つてしまつた。

それでも病院には行かず、市販の抗アレルギー剤を飲むこともなく、猫たちを飼い主に返したところすぐに症状は治まつたので、それほど苦にはしていなかつた。

ところが、この秋口、

ある朝鏡を見たら、顔のシワが目立たず張りのある肌になつていて、気がついた。これは新しい洗顔石けんのおかげか、化粧水の代わりに使つて

いる椿油の効果か、などと思いながら、つるんとした顔にほくそ笑んだ。しかし、翌日になると次第に痒みが出てきて、あきれつ？ となつた。しかかも次第に痒みは増し、頬やまぶたは赤みを帯びて

いる。なんと、張りのあ單に腫れていただけだと気づいた。普段なら放つておくものの、一向に治る気配がなく、それどころか痒みはさらに酷くな

るばかり。仕方なく病院

を受診したところ、アレルギー症状だと告げられた。しかも、化粧類が問題ではなく、季節柄恐らく「イネ」だらうということになつた。

イネ!!。あまり耳にしたことがないが、ヨーロッパでは多いらしい

「自然」「天然物」という類いのものは、体にいいものとの思い込みがあつたが、そうではないことに改めて気づかされた。体にいいどころか、もともとアレルギー体質の人もそうではない人にとっても、それらは思わぬ攻撃をしかけてくる

「危険なもの」という位置づけであつたのだ。

最近の研究では、マツ科の植物の成分に結核菌への抗菌作用が発見され、化学療法が難しい、つまり従来の抗菌剤が効かない結核に対する新しい有用物質と注目を浴びた。でもちよつと待つて。

マツの花粉も紛れもないアレルゲンのひとつのはず。自然とは、両刃の剣であることを忘れずに、常に畏怖の気持ちで対峙することが肝心だろう。

イラスト・伊藤香澄



やステロイド剤に活用されたケースもある。

そういうえば、トリカブトは毒性のある植物だと

ナホの影響で、美容院から足が遠のいてしまつた。人は多いと思うが、ホームケア用品のひとつである髪染め（の成分）がアレルゲンになるとは、女性にとつては由々しき問題である。

岡青洲が世界ではじめての全身麻酔を使って乳がんの手術に成功した。その全身麻酔薬の成分のひとつにトリカブトがある。

薬は、逆から読めば「リスク」である。その言葉通り、植物こそがクリにもなり、リスクでもある。

ナホの影響で、美容院から足が遠のいてしまつた。人は多いと思うが、ホームケア用品のひとつである髪染め（の成分）がアレルゲンになるとは、女性にとつては由々しき問題である。

岡青洲が世界ではじめての全身麻酔を使って乳がんの手術に成功した。その全身麻酔薬の成分のひとつにトリカブトがある。

薬は、逆から読めば「リスク」である。その言葉通り、植物こそがクリにもなり、リスクでもある。</